



エゼキエル ルーベンス

エゼキエルは、神の裁きの背後にある神の御心は、滅ぼし尽くさず、少数の人々を残す(12:16)、わたしはお前に誓を立てて、契約を結んだ。お前は私のももの(16:8)、悔い改める悪人を赦す(18:23)、新しい心と新しい霊を作り出せ(18:31)、わたしがイスラエルを選び、エジプトの地から連れ出した(20:1)、寄留の地から連れ出す(20:38)と、神の愛と救いを伝えます。同時に、お前たちの不貞の報いはお前たちに帰し、お前たちは偶像による過ちの責めを負わねばならない。そのとき、お前たちはわたしが主なる神であることを知るようになる。(23:49) と、民は目がありながら見ず、耳がありながら聞かないから、さまざまな表象を用いて、イスラエルの民に神の裁きを警告します。

1. 捕囚の印である荷物を肩に担ぎ、顔を覆って故郷を見ないようにし、白昼、夕方、暗闇のなかでも運び歩け。また、震えながらパンを食べ、恐れ、おびえながら水を飲め。→神の言葉は実現する。
2. 壁の表面を漆喰で上塗りし、手首に呪術の紐を付け、呪術の頭巾をかぶる偽預言者たちを許さない→神は、神から示された道ではなく、自分の思いに従う者の基礎をむき出しにする。
3. 偶像を心に抱きつつ、主の言葉を求めようと二心を持つ預言者も、その言葉を求める者も、神は裁きのために用いる。→イスラエルが二度と背信しないために、どんな背きもゆるされない。
4. 飢饉、悪い獣、剣、疫病で苦しむ国に、信仰深いノア、ダニエル、ヨブがいても、国は滅び、荒れ、廃る。→裁きを送るのは主であり、ノア、ダニエル、ヨブは自分の命しか救い得ない。
5. エルサレムの住民はイスラエル人の象徴であるぶどうの木の下に住んでいるが、ぶどうの木は木材としては役立たない→役に立たないぶどうの木は火に投げ込まれる。
6. 忌まわしい出生:イスラエルはアモリ人の父とヘト人の母から生まれ、自分の血の中でもがいていた。→神が「生きよ」と言って生かし、育て、神が誓を立てて契約を結んで神の民となった。
7. 忌まわしい生き方:自分から進んで、男の像を作り、裸をさらし、神が与えた賜物をその偶像に捧げた。→神はイスラエルを裸にし、石を投げ、剣で切りつけ、多くの女たちの見ている前で裁く。
8. 忌まわしい姉妹関係:姉サマリヤは自分の夫と息子たちを捨て、妹ソドムは高慢で、貧しい者、乏しい者を助けない。お前は姉妹より墮落している。→自分の悪と忌まわしい行いと責めを負え。
9. 二羽の大鷲と木々:イスラエルのレバノン杉の若枝を切り、地の種を取って、豊かな水の畔の苗床に植えた一羽の大鷲と、水を得ようと若枝と根を、大きな翼と多くの羽毛を持ったもう一羽の大鷲に伸ばすぶどうの木→バビロンに連れ去られた民は伸び、エジプトに頼った民は萎れる。
10. 親の罪を子に問わず、子の罪を親に問わない。個人の罪は個人に問う。→全ての命は神のもの。
11. 悪人が立ち帰る→正しい人が正しさから離れ不正を行えば、生きられない。悪人が悪から離れ正義と恵みの業を行えば、必ず生きる。
12. 若獅子たちが、人々を餌食とし、町々を荒廃させ、ぶどうの木も山火で焼けた。→次々と王が立ってもその悪のゆえに神の怒りを招いた。
13. 剣の鞘を払う:イスラエルのすべての民に向けて、剣が研がれ、磨かれ、鞘から抜かれた→民も君侯も、正しいものも悪いものも切り捨てられる。。
14. 二つの道→バビロンの王は分かれ道で占い、右手にエルサレムと出て、攻城を開始したが、民は空しい占いと思い、慢心した。→自らの罪を思い起させ、捕囚の身となる。
15. 流血の町→イスラエルの家は金滓となり果てたので、炉の中に集め、火を吹き付けて溶かす。
16. オホラとオホリバの淫行→姉オホラ(サマリヤ)の欲情よりも妹オホリバ(エルサレム)の欲情が激しい。→淫行のゆえに姉妹たちを恐怖と略奪的として、裁く。